

# 第18回「野生生物と交通」研究発表会のご案内

notice

「野生生物」と「交通」に関わる問題は、異分野間にまたがる学際的な研究テーマであるため、その情報交換の機会が極めて少ないのが現状です。「野生生物」と「交通」に関する知識の情報交換の場として、この機会にぜひご活用下さい。多くの方のご参加をお待ちしております。現在、論文発表、パネル展示、聴講、懇親会のお申込みを受け付けております。詳しくはホームページ

<http://www.wildlife-traffic.jp/>をご覧ください。



「野生生物と交通」ウェブサイト

- ◆開催日：平成31年2月19日(火)
- ◆会場：札幌市市民交流プラザ クリエイティブスタジオ (札幌市中央区北1条西1丁目)
- ◆論文発表：無料[平成30年12月26日(水)締切]
- ◆パネル展示：無料[平成31年 1月25日(金)締切]
- ◆聴講：無料[平成31年 2月12日(火)締切]
- ◆講演論文集：2,500円(開催当日発売)[予約:平成31年2月12日(火)締切]
- ◆懇親会：4,000円(予定)[予約:平成31年2月12日(火)締切]
- ◆主催：(一社)北海道開発技術センター
- ◆共催：(一社)エゾシカ協会・(公財)北海道環境財団  
(一社)シーニックバイウェイ支援センター  
(一社)アニマルパスウェイと野生生物の会、アニマルパスウェイ研究会
- ◆協力：エコ・ネットワーク

※講演論文集は、研究発表会後もエコ・ネットワークにて購入できます。(送料無料)  
 ※講演論文集の購入に関するお問合せは、エコ・ネットワークまでご連絡ください。(TEL 011-737-7841)

### お申込み・お問合せ：

(一社)北海道開発技術センター「野生生物と交通」研究発表会係(担当:向井・野呂・鹿野)  
 TEL: 011-738-3363 FAX: 011-738-1890  
 E-mail: [wildlife@decnet.or.jp](mailto:wildlife@decnet.or.jp) ウェブサイト: <http://www.wildlife-traffic.jp/>



**編集後記** 今年の10月に我が開発技術センターにカーリング娘がやってきました!(南真由さん:通称みなみちゃん)やってきましたといっても表敬訪問とかではありません。屋間はdecで働きながら、オリンピックを目指して日夜頑張っている現役ひびちカーリング選手なんです!カーリング女子がdecに入るとあって社内にはわかに色めき立ち、お昼と一緒に食べに行けば、真っ先にダイエットに効果的な運動を熱心に聞いてみたり(まずはそれ、して盛り上がっております笑)。この時期大変なのは、試合があるので風邪をひいても薬が飲めないこと(ドーピング問題)。なので、みなさん、風邪をひいたら移さないようにマスクしてくださいね!12月20日(木)~23日(日)、軽井沢国際カーリング選手権大会に南ちゃん出場します!応援よろしくお願ひします!!(R.W)



写真:我らがみなみちゃん(左) チーム名は「STRAHL(シュトラール)」。ドイツ語で「輝き」を意味します。オリンピック目指して輝け!!STRAHL!!!

dec monthly vol.398

2018年11月1日発行 発行人 山口 登美男

発行所 一般社団法人 北海道開発技術センター 〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17  
 TEL(011)738-336 FAX(011)738-1889 URL <http://www.decnet.or.jp/> E-mail [dec\\_int001@decnet.or.jp](mailto:dec_int001@decnet.or.jp)



Hokkaido Development Engineering Center

# dec monthly

2018.11.1 vol.398 デックマンスリー



- Monthly Topic (マンズリートピック)  
**きた北海道エコ・モビリティ推進事業  
 ~River×Road×Rail観光創出に向けて~**
- dec Report (デックレポート)  
**北海道まるごとフェアinサンシャインシティ(東京都)  
 シーニックバイウェイ北海道「秀逸な道展」開催報告**

dec Interview >>> NPO法人なよろ観光まちづくり協会 理事長 栗原 智博 氏

「国際雪像彫刻大会」をはじめ、道北のまちならではのイベントや物産のプロデュースに意欲的に取り組む「なよろ観光まちづくり協会」。天塩川シーニックバイウェイの活動拠点でもあり、道北全体の広域的な地域づくりの牽引役として期待されています。栗原智博理事長をお訪ねしました。

本業の建設土木会社経営の傍ら、長く名寄市のまちづくりに携わってこられました。観光との接点では、どのような活動が端緒でしょうか。

大学卒業後、父が創業した建設土木業の会社に勤務し、父が病いに倒れたため、37歳で社長になりました。まだ20代のころ、名寄青年会議所(以下JC)の会員として携わったのが「親と子のミニ雪像コンテスト」です。当時は市内の高校が荒れていたのですが、JCでは家族で取り組めるイベントを、と企画し、私は実行委員会の事務局長を務めました。コンテストは市内に約1200基の雪像が並ぶ活発なイベントに成長していきましたが、それが観光協会とかかわりを持つようになったきっかけです。

その後、観光協会が私が企画したのが、今では名寄の夏の代表的イベントになっている「てっし名寄まつり」です。夏の間さまざまな小さな祭りが毎週のように行われていたのを一本化して集客を高めようと理事会に提案し、盛大な夏祭りとして定着しました。

観光協会は以前、市の商工観光課に

あったのですが、観光の独立組織をつくるという市の方針で、2001年に、「特定非営利活動法人なよろ観光まちづくり協会」が設立されました。設立時から理事を務め、理事長になって7年目です。

名寄の冬の代表的イベントは「なよろ雪質日本一フェスティバル」。この期間中、「北の天文字焼き」とともに開催されるのが「なよろ国際雪像彫刻大会ジャパンカップ」です。

前述の「ミニ雪像コンテスト」が1989年に「北海道まちづくり100選」に選定されたのを機に、まちではもっとグレードアップした雪像大会にしようという気運が生まれました。そのときに出会ったのが北海道教育大学の伊藤隆一先生(故人)です。北方圏文化に詳しい伊藤先生の応援で、名寄JCは北方圏交流事業として91年、名寄市民によるフィンランド視察を実施。本場の国際雪像競技会に刺激を受けて名寄でも開催しようと有志で取り組み始めたのです。私自身、何度も道教大の伊藤先生を訪ねていろいろと指導いただきました。

「なよろ国際雪像彫刻大会」の初開催は2001年。今では「雪質日本一フェスティバル」(2月第2週開催)の目玉イベントになっています。近年は世界各地から約30チームの応募があり、厳選して10チームを招へい。1チーム3人が1週間滞在し、制作日数3日で作品を競います。国際水準のさまざまな競技ルールがあり、チームには必ずプロ・アーティストを含むこと、

有名観光地ではない名寄にとって関係人口を増やすことが大事。積極的に情報発信しながら、「TEPPEN-RIDE(テップンライド)」を軸に、道北全体に連携を広げていきます。

## dec Interview

**くりはら ともひろ**  
 1956年名寄市生まれ。79年北海道工業大学工学部卒業後、父が経営する昭和産業株式会社(建設土木業)入社。93年代表取締役社長に。2001年、NPO法人なよろ観光まちづくり協会の設立とともに理事に就任し、11年から現職。天塩川シーニックバイウェイルート運営代表者会議の会長代理を務める。道北地区サッカー協会会長など幅広い分野で地域リーダーとして活躍。







## R3モニターツアー本番!～R3だからこそ味わえるもの～

### Day 1

R3モニターツアーの開催年は奇しくも「北海道命名150年」。旅の前半は、松浦武四郎が北海道を「北加伊道」と命名した音威子府村を目指しました。色とりどりのロードバイクで旭川駅を颯爽と出発したTEPPEN-RIDERSと1日目の宿泊地名寄市で再会することを約束し、R3はゆっくりとしたペースで石狩川を北上します。河川敷の自転車道に敷き詰められた落ち葉をかき分け比布駅へ。

比布駅ではサポートカーがすでに輪行の準備をしてくれていました。輪行の旨味は難所を電車で回避できること。その日の難所、塩狩峠も紅葉を鑑賞しながら悠々と。やはり会話は三浦綾子の『塩狩峠』。電車で峠を越え、降り立った先は剣淵町。次の名寄行き電車が来るまで、アルパカ牧場や絵本の館などを見学。行きたいところまで自由に無理なく探索できるのも輪行旅の醍醐味です。この日のゴール地・

名寄駅前よろーなでは、TEPPEN・R3合同のウエルカムパーティー。気分上々、そのまま夜の街・名寄へ。



ウエルカムパーティーでは、名物「なよろ煮込みジンギスカン」でおもてなし



### Day 2

2日目は名寄駅から天塩川温泉駅までの輪行スタート。街並みの風景から美深の田園地帯へと変わっていきました。天塩川温泉で音威子府そばを堪能した後、音威子府のカヌーポートまでは天塩川に沿った脇道を自転車で風を切ります。クロスバイクにも慣れたのか、大自然の中を走ることのでられる解放感でしょうか、交通量が少ない脇道では自ずと参加者たちの自転車かけこがはじまります。

かけこも終わり、次は乗り物をカヌーに乗り換えます。松浦武四郎もこの風景を見ながら下った「天塩川」。ゆったりとした流れに身を任せ、野鳥の声と時折の荒波と通り雨、TEPPEN-RIDERSとのクロスオーバーに歓喜しながら前半の旅のクライマックスを迎えます。「北海道命名の地」では臨時のリバーカフェで提供されたコーヒーが、少し冷えた身体を温めてくれました。そして、TEPPEN-RIDERSとの次なる再会を中川町で!と約束します。中川町サイクルタクシーで一足先に中川町に着いたR3は街の散策の後、中川町の高台までお散歩。自分達のこれまでの歩みを確認し、森の中で火を囲み談笑を重ねました。

ゆったりとした流れの北海道遺産天塩川をカヌーで下る(写真:上)。宮崎県からのTEPPEN-RIDERSを応援するツアーもあり、みんなで一緒に、R3ツアーの仲間を北海道命名の地で迎える(写真:左)



3日目は早起きして朝練!からスタート。地元の人の案内で、中川町の牧場跡の森へ入り、壮大な景色の中、ゴツゴツとしたグラベルをMTBで下るのも貴重な体験となりました。秘密の遊び場を知ってしまった気分になります。天塩中川駅からは電車旅。車窓から見る、幌延町の「秘境駅銀座」に驚き、豊富町では乳牛に歓喜。トナカイ牧場でクラフト体験をし、いざ列車へ。このあたりからガラッと植生が変わり、いよいよ宗谷に足を踏み入れた実感が湧いてきます。電車旅に欠かせない駅弁(最北海幸めし)で、稚内の食を予行演習。みるみる変化する風景の中、海がみえた瞬間、ワッと車内が沸きます。

日本最北の駅・稚内駅に端到着すると、宗谷メンバーがお待ちかね。防波堤ドームや稚内の歴史を案内してくれました。ここから宗谷岬までは一度路線バスへ乗車します。地元のバス乗客と時折会話ができるのもローカル旅の良さだと実感できます。宗谷岬

### Day 3

からは、いよいよこの旅のクライマックス! 激坂を上った先に突然現れる宗谷丘陵の絶景を前に言葉を失う参加者。岬でレンタルした電動アシスト自転車が、向かい風ももろともせず、うねる周氷河地形のみちを楽しませてくれました。

宗谷岬を目指すTEPPEN-RIDERSを待ち、ゴールで感動のハイタッチ。毎日同じ場所からスタートし、同じゴール地を目指しながら、それぞれの楽しみ方で進んだ3日間。宗谷岬のモニュメントをバックに写した記念写真は思い出の一枚となったことでしょう。



「TEPPEN-PARTY」では、それぞれで参加したツアーを振り返りつつ、他のツアーの様子をスライドで共有。笑いあり、涙ありの、とってもいい時間でした!



海を背に、起伏ある宗谷丘陵も電動アシスト自転車で颯爽と走る(写真:左)。日本のてっぺん「宗谷岬」で記念撮影(写真:右)



## R3の次なる目標～「やってみたかった」を「これならできる!」に～

道北地域(否、北海道)の観光形態は、これまでバスツアーが主体でした。しかしながら、昨今欧米豪をはじめとするバックパッカーやキャンピングカーによる日本人旅行者の増加から分かるように、旅の仕方の選択肢が増えてきました。彼らは主体的で自由な旅を嗜好としているようです。そのような方たちから端を発し、旅はより一般化され自由度が要求され、「私だけ」しか体験できない事柄が期待されるようになりました。つまり、旅行者も舌が肥えてきているのです。

今後、そのような飽くなき「旅行欲」を、道北ならば満たせるに違いない、という決定打が必要となってきます。その決定打として、「やってみたかった」を「これならできる!」と旅行通を唸らせる3本の「みち」の旅に磨き上げていかなければいけません。それぞれのRにはまだまだ課題が山積しています。ひとつひとつ丁寧に解決しながら、「また来たい」「ここに行きたい」「ここに居たい」と思える地に向けて、我々ルートコーディネーターもサポートできたらと思うところです。

## 北海道まるごとフェアinサンシャインシティ(東京都)

# シーニックバイウェイ北海道『秀逸な道展』開催報告

来場者数  
約4万人!

dec主任研究員 中村幸治、渡辺利奈

2018年10月12日(金)から14日(日)まで、3日間にわたり「北海道まるごとフェア in サンシャインシティ」が東京都池袋にて開催されました。噴水広場での〈PRステージ〉に加え、展示ホールAでの〈物産展〉では、肉、海鮮、ラーメンといった北海道の味覚を代表するメニューがイートインに集結。当センターからは、中村幸治主任研究員、渡辺利奈研究員が噴水広場でのPRブースにて、シーニックバイウェイ北海道「秀逸な道展」のプロモーションを行いましたので、その様子についてご紹介します。



名称:北海道まるごとフェアinサンシャインシティ  
日時:平成30年10月12日(金)~14日(日)  
場所:サンシャインシティ(東京/池袋) 噴水広場  
主催:北海道まるごとフェア実行委員会  
協力:シーニックバイウェイ北海道推進協議会/北海道地区「道の駅」連絡会  
※3日間の来場者数:約4万人(※主催者発表)



## みんなで北海道を元気に!

9月6日に発生した平成30年北海道胆振東部地震は、宿泊施設のキャンセルなど、北海道観光に影響をもたらしました。シーニックバイウェイ北海道推進協議会では、北海道観光の復興に向けて、地域活動団体及び様々な関係機関等と連携し、北海道の魅力と観光情報を首都圏で発信する取組として『秀逸な道展』を開催。そのコンセプトを“みんなで北海道を元気に!”とし、多様な連携・協働によるオール北海道体制でのプロモーション展開としました。



ステージイベントの様子

## 魅力ある道路空間を紹介する『秀逸な道パネル』

メインステージ上には、「世界水準」の観光地形成を目指して設定された道内15区間の「秀逸な道パネル」を展示し、美しく魅力ある道路景観等の地域資源をビジュアル的にPR。ステージイベント時は、演者後方で広告機能を持たせ、それ以外の時間帯は、自由に散策・閲覧できる展示構成としました。また、ブース内には、全道地図パネルも用意し、コミュニケーションツールとしてブース来場者にとっても喜ばれました。



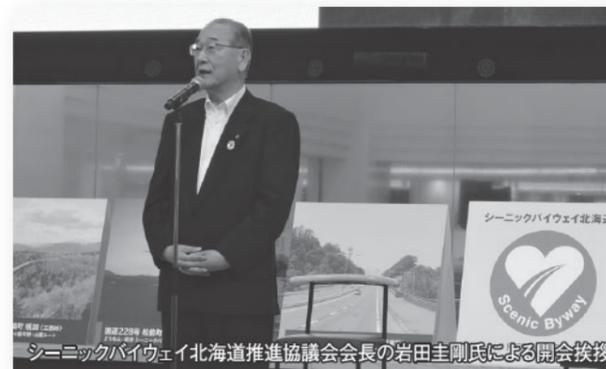
ブース内の全道地図パネル

## 大型ビジョンでの『元気です!北海道動画』の放映

シーニックバイウェイルート、北海道、北海道観光振興機構、北海道日本ハムファイターズ、道内の各自治体等と連携・収集した「元気です!北海道」シリーズの映像を噴水広場大型ビジョンで放映しました。ブース来場者のみならず、歩行者も足を止めて見入る方も多く北海道観光の復興に向けた一つの足掛かりになりました。



大型ビジョンによる『元気です!北海道動画』の放映



シーニックバイウェイ北海道推進協議会会長の岩田圭剛氏による開会挨拶



ブース内の様子

## シーニックと秀逸な道を伝える『PRステージ』

ブース出展者には、3日間で5回のPRステージタイム(15分間)が与えられており、「シーニックバイウェイ北海道」の背景や制度については北海道開発局の方々、「秀逸な道展」については、私が担当し、最後は来場者との掛け合いのもと、正解者にはドライブグッズが当たる「シーニック・クイズ」も実施。会場も盛り上がりを見せ、北海道ドライブを通じて来場者と我々との交流が図られました。



PRステージの様子

## ワークショップメニュー『スタンプバイウェイ』、『秀逸な道メッセージカード』

体験(ワークショップ)メニューとして、理想の道を描くオリジナルエコバック作り「スタンプバイウェイ」や、「あなたにとって『秀逸な道』とは」を問うかけるメッセージカードを用意しました。それぞれ思い思いにスタンプや言葉を重ね、3日間の展示期間中に来場者とともに作品を作り上げる参加・協働型のメニューとすることでブース内の一体感を育みました。



スタンプバイウェイ

## 来場者の声:アンケートより

ブースを訪れた方を対象にアンケート調査を実施し、回答者の約8割が北海道への来訪経験があり、満足度が高いこともわかりました。また、本PRイベントを通じて「北海道へ旅行しようと思った(49.1%)」、「旅行には行けないが特産品等を積極的に購入しようと思った(22.2%)」と7割以上の方が震災後の北海道を応援したいといった意向も確認できました。その動機付けとしては、「秀逸な道パネル」、「大型ビジョンでの映像」、「北海道の人との交流」が大きく寄与していることがわかりました。



『秀逸な道メッセージカード』の紹介



来場者から寄せられたメッセージカード

## おわりに

今回、「北海道まるごとフェア」自体が初めての開催。我々にとっても初めて訪れる会場、池袋での開催ということで、展示方法やステージでのPRタイム等、来場者の動線や他の出展者のブースを参考にしつつ、試行錯誤となりました。最終的には「シーニックバイウェイ北海道」及び「秀逸な道プロジェクト」に加えて北海道の魅力と観光情報の発信、さらには来場者と双方向で交流できた大変有意義な機会となりました。



文責:dec

